

会議録

会議の名称	社会教育委員の会議 第2回臨時会議会議録
開催日時	平成25年4月5日（金曜日）午後2時から4時まで
開催場所	保谷庁舎3階 会議室
出席者	委員：須永議長、齋藤副議長、内田委員、川崎委員、倉島委員、操野委員、濱崎委員、原委員、矢野委員 （欠席）山田委員 事務局：磯崎社会教育課長、神田主査 （傍聴人 1人）
議題	(1) 社会教育施策の今後のあり方について (2) 報告 その他 1 都市社連協総会（4月20日）の委任状について
配布資料	資料1 提言内容への各委員からのレポート ・平成25年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会定期総会の開催について（通知） 平成25年度定期総会議案書（案） ・社教連会報 No.72 ・みんなの生涯学習 No.111
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>・平成25年3月定例会議の会議録を承認する。</p> <p>○事務局： （事務局より委員の解嘱と解任についての報告） 白木委員と本領委員より辞任願が出されたため、3月31日付での解嘱となった。後任については、残任期間が3か月となるため補充は行わない。また、校長会推薦の稲葉委員が市外の学校へ転出されたため、新たに校長会より後任委員が推薦され、次回会議から出席の予定である。今年度は、残りの任期3か月間は、委員11人での活動となるが、引き続きよろしく願います。</p> <p>(1) 社会教育施策の今後のあり方について ※配布資料1「提言内容への各委員からのレポート」に添って、各委員より説明。</p> <p>委員： 案文に添って、意見を提案してみた。これまでの社会教育施策への取り組みは、大きな流れは良かったが、個々には取り組みにばらつきがあるので、そこをがんばって進めてほしいという提言にしたい。</p> <p>委員： 組織があつて機能が連動すると思うので、組織づくりを中心に提言していく事も必要だと思う。</p>	

委員：

地域づくりには、人づくりが欠かせない。人材を育成するのが社会教育だと思う。行政内の横の連携が十分ではない事が課題だろう。文化財施策は、具体的な内容を盛り込み、わかりやすくアピールしていく事が必要だと思う。

委員：

これからの社会の中で、社会教育が役に立っていけるのだろうか、人々を生き生きとさせていけるのだろうかという視点で考えてみた。長年、問題を抱えた青少年や親に係る仕事をしてきたが、最近の親や子どもの様子に変化を感じている。子どもは本音でかわろうとせず、嫌われたくないという思いからまわりに同調してしまう。親も子どもをどう育てたいかという希望や思いが希薄になり、一緒に問題を解決しましょうというより、関わって欲しくないといった防衛的な感じがする。こういった人の変わり様に触れると、人間のあり方や関係を学び合える場を作っていく必要があるのではないか、そしてそれは、社会教育でしかその役割を果たせないのではないかと思う。

これからの社会教育支援は、市民力をボランティアのような形で積極的に活用し、行政は事業の方向性は示すが、市民主体の企画や市民の自由な発想を促していくのが肝要なのではないかと思う。

地域生涯学習事業について

○委員：

事業を実施している者はやりがいを感じていると思うが、市全体に広がらないことがネックだろう。何らかの見直しは必要だと思う。

○事務局：

地域生涯学習事業は、社会教育施策として10年近く取り組んできたが、その事業の評価として地域にとって意味があったのかということだろう。もし、意義があるということであれば、そこを大切にしていってほしいと思う。放課後子供教室の試行事業への参加者のアンケートを見ると、「活動に参加して親子での会話が広がった」、「地域の人にあいさつをするようになった」、「ランドセルを置いてそのまま遊べるので、家が遠い友達とも遊ぶことができた」など良かったという声が多かった。地域生涯学習事業を推進するということなら、地域の組織でなくNPOや民間に委託して全校で実施することも出来る。しかし、そういう形態で地域での事業を実施するのが良いのかということが、東日本大震災後問われてきていると思う。住民たち自身で生活を支えていくという、立川市の大山団地の取り組みが話題になっている。西東京市でも、学校避難所運営協議会の設置が各学校で進められており、行政だけではなく、住民自身も主体となって地域を守っていこうという動きが出て来ている。

○委員：

地域生涯学習事業の目指すものや方向性は間違っていないと思う。民間ではなく住民自身で取り組むことも良いと思うが、現状は行き詰っている。今のやり方だと特定の人の負担がかかる。みんなでやるムードづくりをどうするかだろう。

○委員：

地域の人と人とのつながりができてきているので、取り組む意義はあると感じている。事業終了後のサークル化の動きもあり、そういう成果が出てくるとやっけて良か

ったという気持ちになる。ただ、個々の地域でその評価は分かれるので、市全体として推進すべきかどうかの判断は難しい気がしている。続けていく事が大切だと思うが、今のままのやり方だと長続きしないと思う。

○委員：

「放課後子供教室」が始まり、学校施設開放運営協議会としては、地域生涯学習事業も委託を受けて続けるとなると負担があると思う。

○委員：

放課後子供教室の取り組みは良いものだと思う。東小学校では、試行事業として帰宅しないで参加できるようにしたことで、参加者も増えたと思う。今後、地域生涯学習事業と放課後子供教室を両建てで推進するなら、それぞれをどういう位置づけにし、どういう実施形態でやるのかといったことを考えていく必要があると思う。今のところ、東小学校では、地域生涯学習事業は、土日を活用して地域や保護者の方の力を借りて企画実施する事業、放課後子供教室の学習活動については、平日に実施し、子どもたちが帰宅せずに参加できる事業という説明をして、実施している。

○委員：

地域での生涯学習事業というと、公民館事業もあるが、そんなにたくさん事業は出来ない。地域生涯学習事業がなくなると、地域の学び舎が公民館だけになる。公民館が独自に地域の住民のためにやることは限界がある。学校区ごとに事業が実施され学校を拠点にした人のつながりができていくことに意義があると思う。

○委員：

公民館6館の他に、学校を拠点にして事業をやっていく事は大切だろう。地域にある公民館、小学校、中学校を活用すれば、地域で多くの事業ができる。学校を有効活用しようということには反対はないだろう。しかし、そのためには、そういった事業展開を支える組織が必要である。

○委員：

地域生涯学習事業にかかわっている市民と公民館職員の交流がなかなかできない。公民館も含め市全体として地域の人的交流を図る事業として展開が出来たらと思う。

○委員：

生涯学習部がなくなり、文化、スポーツ分野も市長部局に移り、生涯学習が市の中に点在してしまった。西東京市の生涯学習として一つになれるところはどこにあるのか。組織の中で繋がれなくなったので、人と人も繋がれなくなったように思う。

○委員：

地域の生涯学習の絵が描けると良い。福祉に地域包括支援センターがあるように、公民館6館を中心として、小学校区で考えてみるとか。

○委員：

地域生涯学習事業は同じ人しか参加しないという感想を持たれている。学校施設開放運営協議会だけでは地域へのPRや広報も限界がある。なかなか参加者が広がらないのが悩みである。来てくれる人の口コミが大切だろう。事業の担当者も強制的にやらされて

いるかんじを持っている人もいるようだ。

○委員：

PTAなどで出来ないだろうか。

○委員：

PTAだけでは、子どものことだけで、なかなか地域に広がらない面がある

○委員：

市民ががんばって、地域活動を進めることも大切だが、なかなか後任の人を得ることが難しい。

○委員：

一緒になってやってくれる人が事務局に必要だろう。

○委員：

学校施設開放運営協議会だけではなく、間口を広げ、若い人にも事業企画に参加してもらいたいと考え、PTA役員でない保護者や地域の人に生涯学習の企画委員になってもらっている。学校施設開放運営協議会と別組織で地域生涯学習事業を支える組織ができればと思っている。そういった組織づくりについて、行政でリードして欲しい。全体的に見て、助言してくれる人、考えてくれる人がいたら良いと思う。市民だけでは長くは続かないと思う。情報交換ができる場も欲しい。

○委員：

19校全部が取り組めるよう、行政としての強力な支援体制が欲しい。

文化財について

○委員：

文化財を生涯学習や学校教育へ活用することが大切だと思う。

○委員：

ベッドタウンである西東京市の地域づくりをどう進めるのかといった時、市民に西東京市を好きになってもらうことが大切だろう。そのためには、まず西東京市の文化や歴史を知ってもらうことはとても良いことだと思う。

○委員：

古くからの住民と新しく移り住んだ住民がいる地域では、人のつながりが希薄な状況がある。地域で何か学ぶ機会があれば、人とのつながりができる。地域での生涯学習事業の機会がとても大切だと思う。自治会の講演会でも地域の歴史を知る講座などとても喜ばれる。

○委員：

郷土資料館が出来ればよいと思う。

○委員：

郷土資料室で事業を開いて、参加者を集める工夫もしながら、そういった事業を通じ

と一緒に郷土資料室の運営や事業考えてくれる人を見つけ、サポーターとして活用していくような制度も考えられないだろうか。

○議長：

今日の意見を基に、提言骨子案について正副議長と事務局で再度調整し、議論を深めて頂きたい点も含めて、次回会議で提案したい。

○事務局：

次回会議では、教育計画策定のためのアンケート調査概要とヒアリング調査報告書を資料として配布する予定である。また、社会教育関係団体補助金についても、これまで社会教育委員の会議で検討してきた内容もあるので、今後の社会教育施策のあり方の中で、ご意見を頂ければと考えている。

(2) その他

1 都市社連協総会（4月20日）の委任状について

○事務局：

総会に欠席される方は、次回会議までに委任状の提出をお願いします。

○議長：

以上で本日の社会教育委員の会議第2回臨時会は終了する。

※次回会議 平成25年4月19日（金曜日）午後2時から